

# 横倉山生物総合調査事業

## 両生類 中間報告 (2019-2020)

### はじめに

高知県の中西部に位置する高岡郡越知町には、“仁淀ブルー”で有名な仁淀川が雄大に流れています。またその町内を見守るかのように横倉山（標高およそ800m）がそびえています。

今回、横倉山周辺におけるカエルやサンショウウオ「両生類」について、どんな種が生息するのか調べています。（期間：2019年～2023年度）

★できれば確認したい種（参照：高知県レッドデータブック2018動物編）

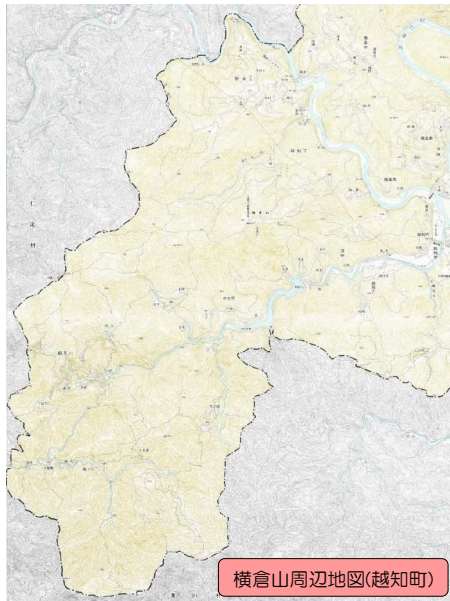
有尾目 オオサンショウウオ(情報不足DD)・イシツチサンショウウオ(準絶滅危惧NT)  
シコクハコネサンショウウオ(CR)・イヨシマサンショウウオ(CR)  
無尾目 ※ニホンアカガエル(絶滅危惧Ⅰ類CR)・ニホンヒキガエル・トノサマガエル

※高知県指定希少野生動物植物種に指定され、捕獲など県内全域で禁止されています(2020)

★確認したくない外来種

有尾目 チュウゴクオオサンショウウオおよび在来種との交雑種  
無尾目 ウシガエル・アフリカツメガエル

横倉山 展望台からの眺望



### 中間報告

2019年から2020年において予備調査をおこなった。高知県内で生息する普通種と、この越知町横倉山周辺に関し、同様のものが確認できるだろうと推測できた。

また、仁淀川水系におけるオオサンショウウオの記録はこれまで数多くあり、2023年までの調査期間で外来種や移入種問題も含め、さらに調査できればと思う。

## ☆ 仁淀川ブルーにすむ 四国のオオサンショウウオ ☆

四国のオオサンショウウオについて、高知県、徳島県、愛媛県、香川県の4県それぞれにおける成体などの確認、新聞記事など昭和20年頃より記録はありますが、これまで自然分布を裏付ける標本や文献、また卵塊や小さな幼生群など発見されていない状況でした。

そこで、高知県レッドデータブック改訂調査メンバー（横倉山自然の森博物館、四国自然科学研究センター、高知県立のいち動物公園、わんぱーくこうちアニマルランドなど）にて、自然分布の真意を明らかにすることを目的に本格的な合同調査を2014年よりスタートしています。

2015年2月には、日本オオサンショウウオの会・桑原一司会長のご協力により、過去県内で成体が確認されている仁淀川支流において、産卵巣穴から出てきたばかりだと思われる全長5cmほどの小さなオオサンショウウオの赤ちゃん「離散幼生を16個体」も発見・保護しました！この記録は、四国における初めてのオオサンショウウオ自然繁殖の確認となりました。これまで、離散幼生群から成体まで数多く確認することができ、個体識別のためマイクロチップを挿入し遺伝子解析も継続して行っています。

今回、横倉山生物総合調査事業・両生類分野にて、「続・四国のオオサンショウウオ」と題し、さらなる検証と調査をすすめています。

高知県レッドデータブック(2018)では情報不足(DD)、環境省レッドデータブック(2017)では、絶滅危惧Ⅱ類(VU)に指定されています。

本調査は高知県および文化庁長官の許可が必要であり、高知県における今後のあり方を提言することを目的としています。



### オオサンショウウオとは！？

世界最大級の両生類。『国の特別天然記念物』。西日本を中心に生息し魚やカニを捕食する夜行性。繁殖期は8月～9月。数珠状の卵を500個ほど産み孵化は約50日。2月ごろ、産卵巣穴から5cmほどの幼生が独り立ちを始めます。この時期、餌となる川虫も増えてくる時期と重なります。『生きた化石』とよばれ寿命は50年以上。

